

白鷹町が幼保小架け橋プログラム推進研修会をスタート

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

管理職の先生方が「幼児教育から小学校教育への接続」について協議。

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

幼児期の育ちと学び、そしてその接続について、町内保育園の保育場面を例に講話。

遊びは学び 幼小接続

遊びとは？

- 研修会立ち上げへの思い -

「子供の育ちをつなぎたい」

白鷹町の子供たちの将来のために、「架け橋期※2」の教育の重要性及び質について、町全体で共有を図っていく必要があると、強く感じていました。子供の学びと育ちは生まれた時から始まっています。幼児教育における遊びを通した学びを、小学校以降の育ちに丁寧につないでいきたいです。



町教育委員会指導主事

白鷹町のことがいっしょ

教育委員会が中心となり、保育所・認定こども園（以下「園」）、小学校、役場関係課とのネットワークを構築し、連携組織体制をスタートさせました。

白鷹町のことがいっしょ

第一回目の研修会には、町内全ての小学校及び保育園・認定こども園から、管理職、教諭、保育士等が参加しました（写真）。町内保育園の遊びの様子を映像で見ながら、「幼児期にこそ大切にしたい教育」「共有したい教育観や子供観」等について、園と小学校側が意見を交わし、連携の方向性について協議しました。

持続的かつ発展的な組織体制及び取り組みとなっていくよう、白鷹町では長期的なスキームを描いています。令和6年度は、保育参観からです。保育を見たことがある小学校の先生は少なく、保育に参加したことがある先生はさらに少ないのが現状です。だからこそ白鷹町では、実際に見ることで、目の前の子供の姿を通して、大切にしたい育ち、幼児期にふさわしい教育の在り方、小学校以降につながる学びを通じた関係者が対話を通して進めていきます。「架け橋期」を目指す子供像を、対話を通して共有していくこのプロセスではないでしょうか。

ちやんこつとメモ



幼児期の生活の中心は言うまでもなく遊びです。遊びの定義は広く、広いが故に認識のずれにつながってしまうこともあります。例えば遊びは次のように定義されます。
参考資料：これからの幼児教育2014（ベネッセ教育総合研究所）

- ① 自発性
② 自己完結性
③ 自己報酬性

「遊び中心の保育を丁寧に展開しているか」という視点をもつことは、質の高い幼児教育の実現に向けてとても大切です。また、「遊びとは何か」「なぜ遊びなのか」等の問いは、小学校以降のカリキュラムを子供中心に再考する際、大変有益な視点と言えます。

ちやんこつとメモ



幼小接続のカリキュラムを編成していく際、山形県版の「カリキュラムデザインシート」と「カリキュラムシート」等の活用をおすすめします。詳細については、県HPにアクセスしていただくか、最寄りの教育事務所までお問合せください。

（発行元）
山形県教育局義務教育課
023-63003416
okurakak@pref.yamagata.jp

幼小通信は、ホームページでも閲覧することができます <https://x.gd/TXG2g>

※1：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用。※2：5歳児から小学校1年生の2年間。（文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」より）